

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700158		
法人名	株式会社アライブ		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム椿		
所在地	岐阜県恵那市山岡町下手向1620-2		
自己評価作成日	令和3年2月19日	評価結果市町村受理日	令和3年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191700158-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191700158-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」の理念のもと、当施設は認知症の方が車椅子となっても安心して生活して頂ける設備を整えていますので、ADLの変化による居住環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で生活を続けて頂く事ができます。住む人、働く人、訪れる人、すべての人が心落ち着き癒され五感で想い感じる建物と庭園が一体となる和モダンの造りとなっています。自治会のご協力を頂き、地域行事への積極的な参加や地域の方を交えた施設行事を行い、入居者様と地域住民の皆様が顔馴染みの関係となれるよう、職員一丸となり取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然環境に恵まれた地にあり、利用者は、近隣を散策しながら四季折々の移り変わりを楽しみながら、穏やかに暮らしている。木造平屋作りのホームは、全館バリアフリーとなっており、利用者はユニット間を自由に移動することができる。職員は、理念の「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」を常に意識し、笑顔に繋がる支援に取り組んでいる。コロナ禍であっても、散歩や散策を継続し、中庭では野菜を一緒に育てている。管理者は、職員の定年制を廃止し、さらに働きやすい職場環境作りに努め、利用者の安心につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」という理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係性が作れるよう日々努めております。	職員は、常に理念を意識し、利用者の笑顔と安心につながる支援に取り組んでいる。日報の最上段にも理念の文言を明記し、毎日、目にすることで確認が出来、職員間で共有しながら、支援を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事や地域の行事に参加をさせて頂き、交流の機会を多く設けるよう予定をしておりましたが、コロナ化で実践できませんでした。本通りから支道に入る電信柱に施設入り口の看板を設置しました。	自治会に加入し、地域の年間行事やホームの行事等で交流していたが、現在は、感染防止の為、参加を自粛している。保育園児との交流や学生の介護体験を受け入れるなど、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解を深めるために、新人研修の資料やマニュアル等を設置している事や、運営推進会議等で認知症についての質問があった場合は、説明をさせて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で入居者様の生活をお伝えし、地域の方々の要望、ご意見をお聞きしたのち、サービスの向上に活かしていけるよう努めています。ご家族様に運営推進会議の資料を送付するとともに、会議への参加を呼び掛けています。	運営推進会議は感染拡大予防のため、開催を控えていたが、昨年11月には、自治会長、行政、家族代表が参加し意見交換を行うことができた。事前に運営推進会議の資料を送付し、運営に関する意見の提出を依頼している。また、家族から「入居後、本人が明るくなった」との声が聴けた事を会議で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所職員に運営推進会議への参加を依頼し、担当者とは相談を行っています。また市主催の研修会やイベントに参加し、協力関係が築けるように努めています。	現在、運営推進会議は書面での開催であるが、行政からのコロナ関連情報は、適切に運営に活かしている。介護保険の動向や困難事例、現場の状況を報告しながら、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル等を通じ職員に身体拘束について周知しております。やむ負えず必要になった場合は、ご本人様、ご家族様を含め担当者会議を開催しますが、解除出来るよう随時モニタリング、担当者会議等を行い身体拘束解除を目指します。また運営推進会議においても毎回議題として取り上げさせて頂いております。	身体拘束廃止委員会は、運営推進会議の中で行っている。職員は、マニュアルを基に身体拘束について定期的に学び、具体的な場面を想定しながら、話し合っている。また、スピーチロックについても正しく学び、拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のマニュアルと資料にて、職員へ周知するとともに虐待防止に努めております。		

岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より、スタッフに対し、成年後見制度について説明を行うと共に、各自で自主的に地域で行われている研修への参加を促しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にはご家族様に施設見学をして頂き、合わせて契約について十分な説明を行っています。不明な点があれば理解、納得していただき、ご了承いただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時に、入居者様に対する要望を確認。その内容を職員間で共有し、入居者様の生活がより良くなるよう努めております。また、意見箱を設置し、ご家族様や入居者様の意見等を頂けるように努めております。	新型コロナ感染拡大防止対策として、面会制限していたが、状況を見ながら解除したり、電話やメールで連絡を取り合っている。テレビ電話での面会も実施し、家族の安心につなげている。行事報告や今後の取り組み、運営推進会議の資料等も送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議の開催時には代表者、管理者を交え職員間での意見交換を行い反映しています。また、年2回の職員個別面談にて意見を聴取し反映しています。	管理者も職員と同じシフトで現場に入り、直接、職員の意見や希望を聞き、対応をしている。職員の定年制を廃止し、自己管理のもとで適切な働き方を選択できるとしている。代表は、職員と定期的に懇談する機会を設け、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者が現場に入る事で職員の努力、勤務状況の把握に努めています。人事考課シートや個別面談を通じ、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人に役割や課題を持たせ、責任を持って業務に当たるように努めている。また、介護マニュアルを作成する事で質の向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会やイベントの参加などを通じ交流させていただき、意見交換や外部との繋がりを持つ他、お互い向上出来るような体制づくりに努めていますが、今年度はコロナのため未実施です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人様、ご家族様との面談を行い、要望等を確認し、安心して入居していただける体制づくりに努めさせていただいております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご本人様、ご家族様との面談を行い、要望等を確認し、安心して入居していただける体制づくりに努めさせていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談にてご本人様やご家族様の情報を収集し、アセスメントを行い、その時の状況にあったサービスを提供させていただき、希望に沿った支援ができるよに心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに暮らす」の理念の元に入居者様に安心して暮らせるような関係を築く事ができるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を随時行い、面会や必要物品のお届けを依頼する中で、ご本人様のご様子等を知っていただけるよう関係作りに努めています。 今年度はビデオチャットを導入し、リモート面会を可能にしました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に面会、外出、行事の案内等を送付し、施設に訪れて頂く機会を確保し、今までのご本人様の色々な関係性が途切れないような支援に努めさせていただいております。	家族の訪問時には、利用者の日常生活を見てもらいながら、職員と意見交換を行ったり、馴染みの場所へも出掛けていた。コロナ禍の今は、感染対策をした上で、数日に分けて、少人数でドライブに行くなど、利用者の気分転換を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性の把握に努め、入居者様が孤立してしまわないように職員が間に入り、入居者様との関係性を構築できるような支援を心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、お電話などで状況をお伺いし、ご本人様やご家族様の介護に対する、不安や悩み等のご相談を頂いた場合いつでも支援が行えるように努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の面談にて、ご本人様の暮らしの希望や意向の把握に努め、介護計画、サービスに反映していけるように努めています。	利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、その内容を職員間で共有している。利用者の希望する暮らし方を少しでも叶えられるよう、時間をかけて、思いや言葉を聴き取り、本人本位の支援と笑顔につながるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談にて、ご本人様の生活歴、暮らし方をお聞きし、入居後も以前と同じ生活ができるよ家具を持ってきていただく等の生活環境作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の面談にて、ご本人様の以前の暮らし、心身状態の把握に努め施設での生活が以前の暮らしに沿えるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議でのご本人様、ご家族様の意見、要望を聴かせていただき反映し、介護計画の作成するように努めています。今年度、面会禁止期間はご家族様に電話にてご意向を確認させていただきました。	介護計画は、家族の意見や希望を聞き、介護記録をもとに担当者や関係者で十分に話し合い、作成している。面会制限を実施していた際は、電話などで家族の意向確認を行っていた。利用者の状態に変化があった場合は、介護計画の見直しを行っている。	新型コロナウイルスが収束した折には、家族もサービス担当者会議に参加できるよう日程調整を行い、共に話し合いながら、納得のいく介護計画作りができるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、または介護記録や業務日報等に記入し、職員間での情報共有を行う中で日々の実践や介護計画の見直しに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に関わり、ケアを行うなかで、既存のケア方法や関わりに固執しがちであるが、他種の方法があるのではと、小さな事から職員に課題として提供し、多機能化に取り組んでおります。		

岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様が以前の生活により近い暮らしが出来るように地域資源を把握し、出来る限り利用させていただき、ご本人様の意向に添えるよう努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医については継続が変更かを相談をします。定期受診への付き添い支援や月に1回の往診の手配等、ご家族様の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医との密な連携をとり、適切な医療を受けられるような支援を行っています。	契約時に、かかりつけ医について、事業所の方針を説明し、本人・家族が選択している。従前のかかりつけ医を選択した利用者もあるが、ほとんどの利用者が協力医を主治医とし、月1回の往診を受けている。協力医と連携を密にし適切な医療が受けられるよう支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で知りえた情報を看護職と情報共有を行い相談し、入居者様に適切な受診や看護が受けられるように努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の状態変化に早期に対応し、入院期間の短期化に努めています。また搬送先病院等には、かかりつけ医や連携室などを通じ早期な情報提供を行い、受診や入退院が円滑に行われるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重症化、終末期の方針をご家族様から聞き取り、施設で行える対応について説明しています。その後、状況に応じご家族様の意向を再度確認し、かかりつけ医や入院機関の協力のもと、施設での看取り介護、もしくは他施設や医療機関への転居をお願いしております。	契約時に、重度化や終末期について事業所の方針を説明し、同意を得ている。利用者の状態に変化があった場合は、早い段階で関係者が十分に話し合い、家族の意向を再確認しながら方針を決定し対応している。また、医師の意見を踏まえ、出来る範囲で看取り支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生に備え、緊急搬送等、随時看護師より指導、実技講習を定期的に行い実践力の向上に努めています。また緊急時マニュアルを作成し、有事には速やかに対応できるよう周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(1回は消防署の立ち入り検査)の防災訓練を行い、災害時対応ができるよう徹底しております。また市の防災訓練に参加させていただき、協力が得られるような体制作りにも努めています。 今年度市防災訓練は地区では未実施。	年2回夜間想定を含め、防災訓練を実施している。通報、避難誘導、消火器の取り扱い訓練を行っている。地域の災害訓練にも参加している。事業所は、オール電化であるため、災害時の停電に対応できるよう、カセットボンベも準備している。	水害については、ハザードマップで安全地帯であることを確認している。地震については、運営推進会議で地域住民と話し合いながら、対策を検討し、非常電源装置設置についても早期実現に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を守れるように日々傾聴し、その方に合った言葉かけを行うように努めています。	職員は、認知症が引き起こす言動や行動を理解し、対応方法についても正しく学んでいる。また、入浴や排泄時の介助は、特に羞恥心に配慮している。常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の日常生活での思いや希望を傾聴し、ご本人様が自己決定ができるよう支援させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合ではなく、入居者様の一人ひとりのペースや生活リズムを大切に、支援をさせていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様それぞれに希望をお聞き、選択していただけるような支援を行う中で、その人らしい生活が出来るよう努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに合った役割や、食事の配膳、下膳等その方に出来る事を行っていただくように心がけ、毎日にハリのある生活を送っていただけるよう支援をさせていただいております。	その日の献立内容を掲示している。また、利用者の好きな物、食べたいものを聞き、行事食に取り入れている。農作業経験のある利用者が、事業所の庭で野菜を作り、それを食材に利用することもあり、利用者の楽しみと残存機能維持に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録を基に、個々の栄養状態や体重を把握し、食事の提供を行っています。水分補給に関してはご本人様の希望の飲み物を伺い提供させていただいております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態の把握が出来るよう努めています。また口腔ケアが出来る限りご本人様で行えるよう支援をさせていただいております。		

岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様のそれぞれの排泄パターンを把握する事で排泄の失敗がないような支援を行っています。可能な限りトイレでの排泄をしていただけるように、経過を観察し支援をさせていただきます。	個々の排泄パターンを把握し、表情や動きなどから、声掛けと誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。立位保持が可能な限り、トイレでの排泄を支援し、排泄用品の軽減に繋げている。夜間は安全面を考慮し、ポータブルを利用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄をチェック表にて確認し、毎日のラジオ体操、口腔体操等の運動に働きかける等、便秘への個々に応じた予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決めさせていただいてますが、個々に合わせて随時希望を確認し、希望に沿えるよう支援させていただいております。	週2回の入浴としているが、利用者の希望や状況に合わせて、柔軟に対応している。個浴でゆっくり湯船に浸かれるよう介助したり、コミュニケーションを図りながら、見守りで支援している。個浴が難しい利用者には、機械浴で安心・安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれの生活リズムに合わせた生活を送っていただけるよう支援させていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報のファイルを作成している事や看護師からの情報伝達が随時行われており、業務日報、毎日の申し送りにて周知徹底し、症状の把握に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの趣味や生活歴に合わせて、毎日楽しく、ご本人様の趣味嗜好に合った生活が出来るよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に地域のお祭りや、喫茶店、近くのお店に買い物に行く等、外出外泊が出来るよう支援させていただいております。今年度はコロナのため外出機会が少なくなりました。	これまでは、地域の喫茶店や買い物に出かけたり、日常的に事業所周辺を散歩し、住民と談笑していたが、現在は、外出や交流を自粛している。敷地内の散歩にとどめ、テラスや中庭で外気に触れたり、ドライブで車中から景色を眺める等で、利用者の気分転換を図っている。	



岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設管理ですが、現金所持を希望される方には、ご家族様の理解を得たうえで、ご自分で管理して頂き、お買い物際にはご自分でお支払いいただくよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族様に状況をご理解して頂いたうえで、ご本人様からお電話を直接させていただいています。また携帯電話の持ち込みも可能です。今年度よりビデオチャットを導入しリモート面会を可能にしました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は開放的で、馴染みのある畳も設置しております。照明はすべて暖色系の物を使用し、外の光を感じられるように工夫しております。庭園には椿と楓が植わっており、新たに畑のスペースをご用意し、一年を通して四季を感じて頂ける工夫をしております。	共用空間は広く、陽ざしが室内奥まで届き、明るく開放的な環境である。中庭で野菜を育て、シンボルツリーの椿が存在感を示している。キッチン是对面式で、職員は、食事準備をしながら利用者の見守りや会話ができる。1人用椅子や寛げるソファが各所にあり、利用者は好きな場所で寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは一人の時間が確保できるように、テーブルから離れた所にソファを設置している事や気の合ったご利用者様同士で過ごす事ができるように座る位置等に留意しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真を飾ったり、家具は使い慣れた馴染みのある物をお持ち頂くようにし、新しい環境のなかでご本人様が居心地よく過ごす事が出来るように努めております。	居室入り口には、表札と花の絵を掲示し自分の部屋が分かるようにしている。窓も大きく、外の景色が見渡せ、季節の移り変わりを感じることができる。好みの小物や写真を飾り、清潔で心地よく過ごすことができる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の意思表出に対し、出来る事を理解して頂き、今持つ「できる能力」のなかで、ご本人様が自立心をいただけていただけるような生活、役割を職員と共に考え、支援しております。		